

基本施策評価シート

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号 31

基本施策 豊かな自然環境の保全と創出
 構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	農山村の自然環境の保全	B
施策2	森林の保全	B
施策3	生態系、自然環境に配慮した水路の整備	C
施策4	河川の自然再生と親水環境の創出	C
施策5	化石の保全と活用	A

成果指標

指標	内容	令和2年度 目標	令和2年度末 実績	単位	令和2年度の成果の検証
地域で設置された自然環境に配慮した施設の設置数	農地や水、農村環境の保全活動により設置された生態系に配慮した施設の累積数	17	12	カ所	生態系に配慮した施設の設置には至らなかったが、生態系や環境に配慮した農村環境の保全活動により、農山村の自然環境の保全が図られている。
森づくりイベントの参加者数	森づくりイベントに参加した年間延べ人数	520	102	人	コロナ禍の影響でイベントが制限され目標を達成することはできなかったが、小学生による苗木の育成等、身近な森林への関心や森の大切さの認識を高めるいい機会となっている。
化石発掘体験事業の参加者数	大野市内で化石発掘を体験した年間延べ人数	5,000	5,031	人	施設管理者変更に伴う情報発信の強化により、体験施設の認知度が向上し、体験者数が増加した。
和泉郷土資料館での企画展の開催	化石に関する企画展の年間実施回数	1	1	回	和泉郷土資料館の地層解説・化石展示の充実及び所蔵資料の学術的価値の向上とその周知につながっている。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業に携わる人々の減少と高齢化の進行により里地里山、里川が失われ、山林が荒廃しつつある。 ・河川水量の減少などにより、河川敷に木々が生い茂り、河川環境が悪化している。 ・和泉地区では貴重な化石が多く発見されているが、中部縦貫自動車道などの工事によりさらに多くの化石が発見される可能性がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を保全し育てていくための取り組みや適正な維持管理、環境に配慮した河川整備。 ・化石の学術や教育、観光の分野で保全と活用を図る。

社会情勢・市民ニーズの変化

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の自然環境教育及び自然体験活動等の環境保全活動を楽しみながら触れ合う機会が減っている。 ・九頭竜川や真名川沿いの集落、住民からの河川内の浚渫、伐木に関する要望は依然として多い。
--	--

現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境教育及び自然体験活動等の環境保全活動を楽しみながら実践する場が減っているため、触れ合う機会を提供している。 ・河川内の浚渫、伐木に関する要望は依然として多く、河川管理者へ要望し、浚渫、伐木を実施している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・エコフィールド(どんぐりグリーン広場)を中心として、自然環境教育及び自然体験活動等の環境保全活動を楽しみながら触れ合う機会の場を提供し、緑化活動の啓発を行う必要がある。 ・河川管理者である福井県は、浚渫、伐木に努めているが、依然地区から望む声が多く、県に対し継続して要望を行う必要がある。

基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境教育及び自然体験活動等の環境保全活動を楽しみながら実践する場として、10月に森づくりイベントを実施するとともに、どんぐりの里親事業では市内小学2年生が苗木の育成活動を通じて、森林を身近に感じ、その大切さの認識を高める機会となった。
----	--

改善点

	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる交流人口の拡大のため、化石発掘体験施設を適正に管理するとともに、化石産出地の保護・保全に努める。 ・今後もエコフィールドを活動拠点として、自然環境教育及び森林環境保全活動を実施する場を提供する。 ・今後も県に一級河川内の雑木の伐採等を働きかける。
--	--